淀川兩岸一覽

下り船之部

下

ル 4
2320
4

門 儿号4
2320
4止

阿久刀神社 芥川村にあり延喜式に出雲の生土神と云今住吉明神と称し阿久刀ハ芥川相通に右月村にあり古跡と云城堀内と云貞和康安の頃まで芥川右馬允くらん居し三河守より始めて城を築き永正年中三好希雲第三男孫治郎長則さらに據り希雲ハ細川高国に殺され長則ハ洛の百万遍にて自殺に其子孫十郎さらに據る天文廿二年八月長慶これと逐ふ孫次郎儀奥にさられと守る細川六郎徹田七兵衛土岐山城守又さらに據る

芥川古城

松永彈正久秀故居 東五百住村にあり

鴨神祠 赤小路村にあり例祭十月朔日

津江薬師 津江村にあり本尊瑠璃光佛ハ行基の作霊験あらたなり毎月十二日近郷より群詣

○唐崎 芥川の下にあり此地ハ近郷の諸荷物運送の場所にて問屋商家有り絶えず高槻へ十八丁

三嶋若宮祠 唐崎村にあり系祢八幡春日三島江の社の若宮なり

三嶋江

川淀や
霧とやそ
る
芦の角
猿雖

訓花
春霞うちそろ
かくやはの宮の
ほのぐらの
ひろうるうん
茂頼家

○三嶋江　唐崎村の下に行う番田村より西へ水上凡二十丁ばかり川辺に家屋あり又船客の搦手にて此所より上る行人或は乗り下る人此岸に船をつなぐ上下ともに同し

此地は行程四里

此地は大坂まで陸路行程四里

〳〵代々の勅撰に見へ宝や淀川の流れを帯て浪花より京師に通ふ船夜〳〵の櫓拍子に哥ひてさし下るあり登る有引船の綱長くひく綱に綱車とかけ〳〵音高〳〵引つまる水主の足並揃ふつれ芦間の鶴鳴く時分の一聲に月清く流水溶々として河風凜々たる船より船に酒うる声驚然として人〳〵眠を覚す頃初雁のかり〳〵に千鳥なく霜夜の夜みな此三嶋江の風流〳〵何れも和歌の種なれば

万葉　三嶋江の入江のふの根かけて我とぶ君をいつかわすれん　使人未詳

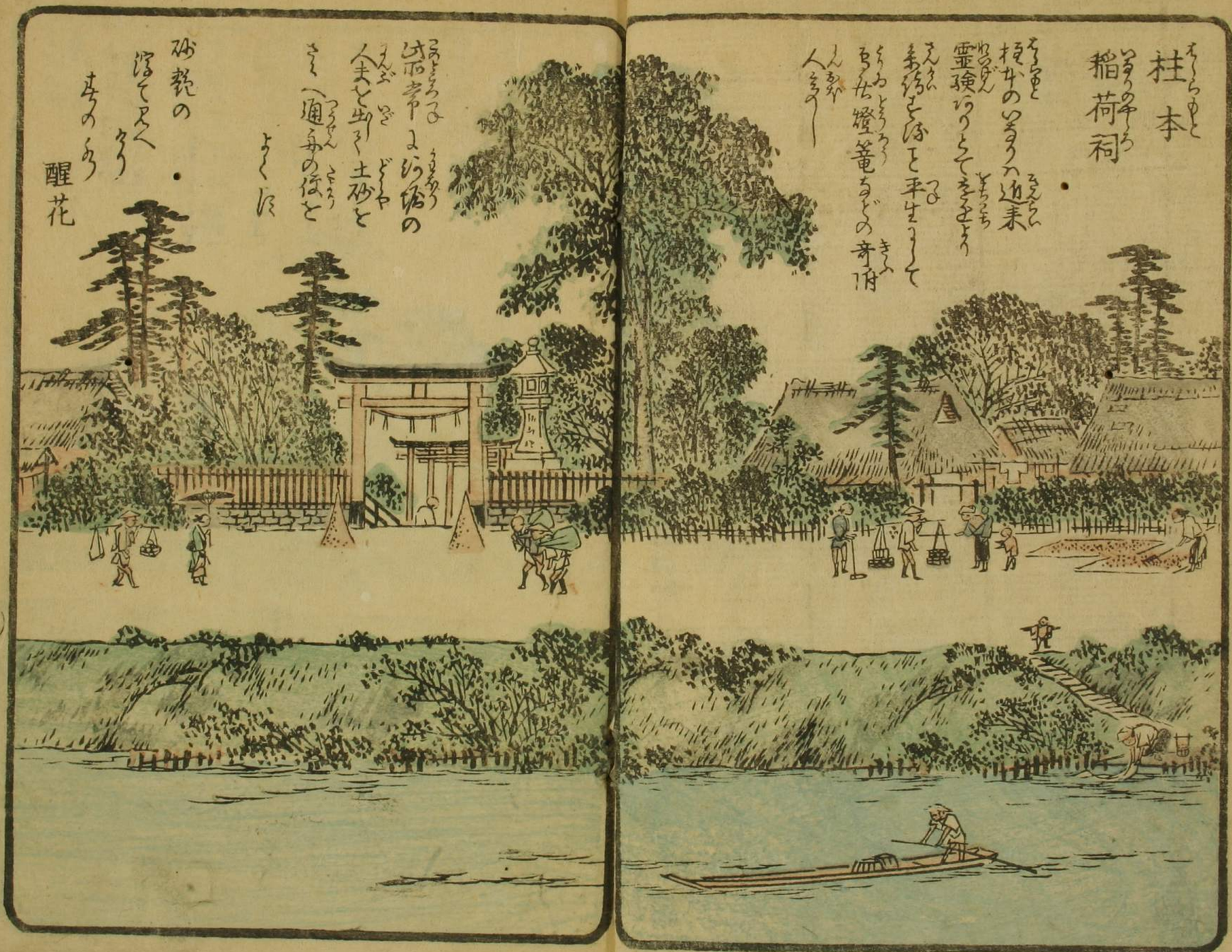
三嶋江渡口　島上郡　三島江村より河内州茨田郡出口村の岸へ淀川を渡る舟出口の長二百十間上六

三嶋鴨神社　三嶋江村に鎮座延喜式に出　唐崎　西高柱　その生土神

祭神事代主命　末社五座本社の左右に列座　当社は伊豫の三島　伊豆の三島是と三箇の三島なり

其時の摂石今社前に立て文字磨滅して分明なし　堤の上に立

風土記云御嶋神社は大山積命に難波高津宮御宇此神百済國


桂本
稲荷祠
霊験あらたかなる
人参を掘り土砂を
砂乾の
醒花

鳥飼

藤杜神社

[illegible]
多刈の上中下 西村と
[illegible]村ありて甚だ[illegible]
[illegible]て長し[illegible]上村より
西村までの間一里の余
あり
生土神社は西村より
[illegible]て茂の森の社と
[illegible]

[illegible]の
人まと出て土砂と
[illegible]水路[illegible]
[illegible]

淀川や
のぼる堤
[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌城

より渡来し給ひ津國御嶋に坐すと云云

片葉蘆　當社の神籬に葦一説に川辺の芦に添れるなり自然に片葉
とより又其性とうけ茅立より片葉に生ずるなり葦あの作も
川に生れこそ性とつゝく今こ
片葉に生ずるなり是風土の奇なり

玉川　三島江村の西の方西面村の田畔の中にあり名所六ツ玉川の其一なり
土人云中秋の月此流水に映る時はそのかげ二ツに見るとぞ
和歌に玉川の里と書く詠り　卯花　時鳥　搗衣　月　萩　氷柱　氷
霰　あられ　合せ

時雨　時雨ぬ里は玉川の底の宴の酒杯とうけむ白雪　定家

蔡　見るとせば波の柵かけくらす卯花咲る玉川の里　相模

千歳　松風のそよぐふ秋はさびしきに夜ふかく玉川のさと　俊頼

○柱本　三島江村の下にあり御牧の御牧時中の御牧ひ旧跡
上の声牧は共に更喜式に出　上牧村共に上牧

淀川の流　あの辺りは土砂多く滞るゆゑ所〻に瀬と
なりて通船のさゝるぞ常に河堀の人夫出て
是を浚へ水尾串と立て水路の便とす故に上下の船
客に郵の助力と乞ふされば昼船は人夫の乞に任せて直ふ
銭と出すなれども夜船は各熟睡されば河堀の男ゞせるゝきを
声に驚と波られ詢きゝ紡布の口と開くいろ〻の虚睡して
是と遁んとする白痴あるれど正直の乗合かゝると員へて一個も

渡し舟今に掛ケ河堀の男ニ渡し此舟中の風俗〻

○鳥飼 往本村の下ニ此所より 上村 中村 下村 西村と打り堤の内至つて長し 三嶋より上手舟を水上凡三十二丁ほど

水上凡十五町上手内より 平手舟を水上凡三十二丁ほど

西より大坂へ陸路行程三里

散木 あさくらの船とさしてこぎ出ぬ 俊頼

鳥養宗慶跡 右上村ニ打り今に其苗孫でゝ

宗慶ハ鳥養氏當村の人なり書と能〻世に名高し初め御家流と学び後ニ一家とする是と名養流と称し後と宗慶といふ

十市兵部少輔遠忠同弟遠勝又貞徳の又永種補長譜

飯尾常氏又ハ鳥養流の名家なり

馬嶋 鳥飼の前淀川の中ニあり長サ一里ばかりつゝく洪水ニ崩流せり

往古御牧の古跡なり

鳥飼御牧 右馬寮 古蹟なり 延喜式曰 凡諸節及行幸應用國飼御馬者勘量須數奏聞乃下官符令進唯牧放飼馬者寮移當國即令牧子牽送 但摂津国鳥飼牧豊嶋牧 凡國一不移當国寮直放繋飼御馬者摂津國十疋 右寮 又同式曰 摂津國鳥飼牧 左寮

土佐日記云二月八日なれ川のぐりたるぐるこぎ出ぬ

鳥飼渡口 下鳥飼より河外茨田郡仁和寺村淀川と云 云安辺なり 河西村ニ打り此地五ケ村の生土神と称し山別荘の表 崇道神敬天皇

藤杜神祠 社本 同し水上三百州間なり

勅清水例祭九月九日 同所ニ三本松 天満宮と称す

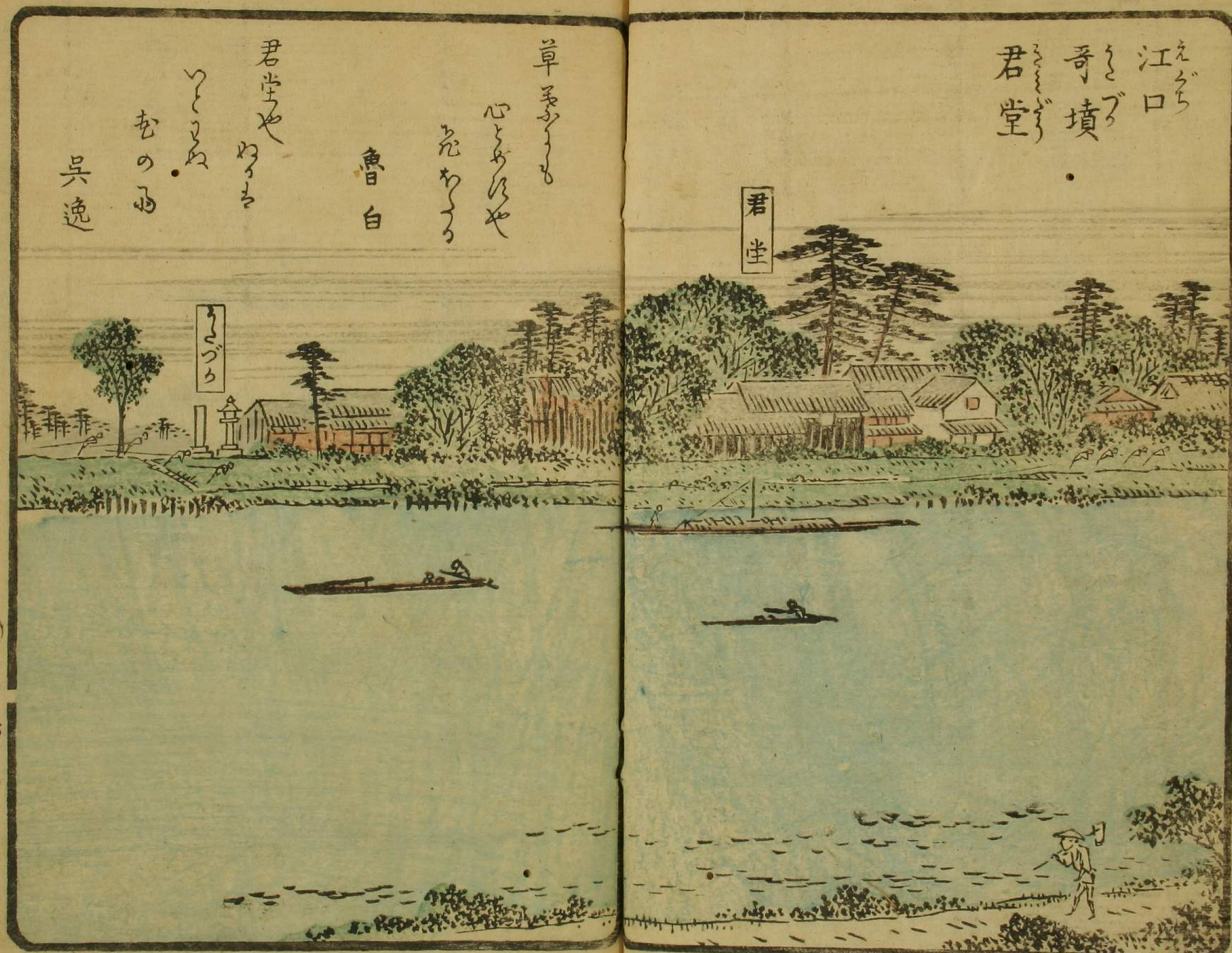
あり菅公流罪と聞下向のとき此所に歌を詠て名木の例歌
六月廿五日又当村中に下り松を植て踊り跡と名木の
○輪道　同下に有　柳島　輪道村の前（）一津屋　輪道村の下に有
名所の内　淀川の中に有
一津屋渡口　島下郡一津屋村より河州淀田郡八番村へ淀川を渡す
渡の長サ三百九間より下鳥飼より此所まで水上凡九五丁
神崎川　一津屋村の傍に有淀川の流れ西へ分れ吹田神崎と廻り大和田と
めぐり海へ入る江口まで唐船へ乗り旧記に
江口渡口　右神崎川と一津屋村より江口村へ舟渡す
江口村の郷保田中氏に元亀年中の古牒有り其文曰

渡舟之儀昼夜令弛之条南村之事孔坊宿藉一切
非分除之若猥儀存之可成敗之状如件

元亀元年九月　信長判　江口村　船頭中

○江口　右神崎川の南の岸に有り（）（吹田村）
淀の川尾にて猪波江のそばにあり（）（吹田村）
船にふつゝく見よう川船にのりて上る程海船にて伺る
漕るれば繋ぎの地（）（吹田村）
泉州堺の津より天正年間より大坂海内の大湊となり今の農家僅に
耕作の地となるべし此所より吹田への街道有り但し吹田川の北より
続日本紀曰天平宝字三年十二月高麗の使高南甲難波の江口に
到る云云海船通ひし証なり一津屋より凡そ二丁余
菅家後集　川末の江口に立る芦鶴のなく所る声を我なきぬせよ　菅家
君堂　同村に有り日蓮宗宝林山寂光寺普賢院と号に女僧住職に
按るに江口の謡の文義なりて後世に佛場なるべし
江口君像　本堂に歩に長さ弐尺ばかり座像其余普賢菩薩の形を安に
又什宝に西行法師の和歌あり
山深くさそふ心はかよふとも哀いかゝらん拘へん　西行

江口
寄墳
君堂



草葉
心ときめかや
花ちるる
曾白

君堂や
ゆくも
くるるも
春の雨
呉逸

逆巻

橋寺

新川

山川

逆巻より平田までの間淀川の内を流れ川筋二流なり彩川と云ふ

此所堂ヶ島の人夫出張して水尾串を通船と助く毎月拾年ノ

同じ小のなかに彩らしき石の地蔵を作り是ハ七年水死の供養に建る所なり

江口城墟　江口の村甲田中氏の家其古跡なり
天文年中三好宗三こゝに據る

哥塚　同村南の堤こゝより新古今贈答の和哥と石刻して建る
北の方へ西行法師の尼南の方へ妙の尼
天王寺へまゐり侍るとて江口にやどりしたりければ
江口にやどりしたりけれ人の後侍る

歌今　世の中といとゝはまぐりそかなしきあぜの家とめしむ若草　西行法師
同　世とともに人とゝまれば仮の宿をいとゝ思ひぞ　妙
江口尼古蹟　同村なる旧趾詳なるべし尼の軒へ西行撰集抄こゝ
見へこゝに畧す

○辻堂　江口村の下こゝ　辻堂渡口　西成郡辻堂村より河州茨田郡下島村へ渡りこゝ
○南大道　辻堂村の下こゝ　淀川監船所　南大道村の下こゝ
世俗三平田の番所こゝ

○逆巻　南大道村の下こゝ　○搗寺　逆巻村の下こゝ　○平太　搗寺の下こゝ
北大道の属邑こゝ

平太渡口　摂州西成郡平太村より同東生郡今市村へ淀川こゝ舟渡こゝ
今市のこゝ云平太こゝ大坂へ弐程凡二里

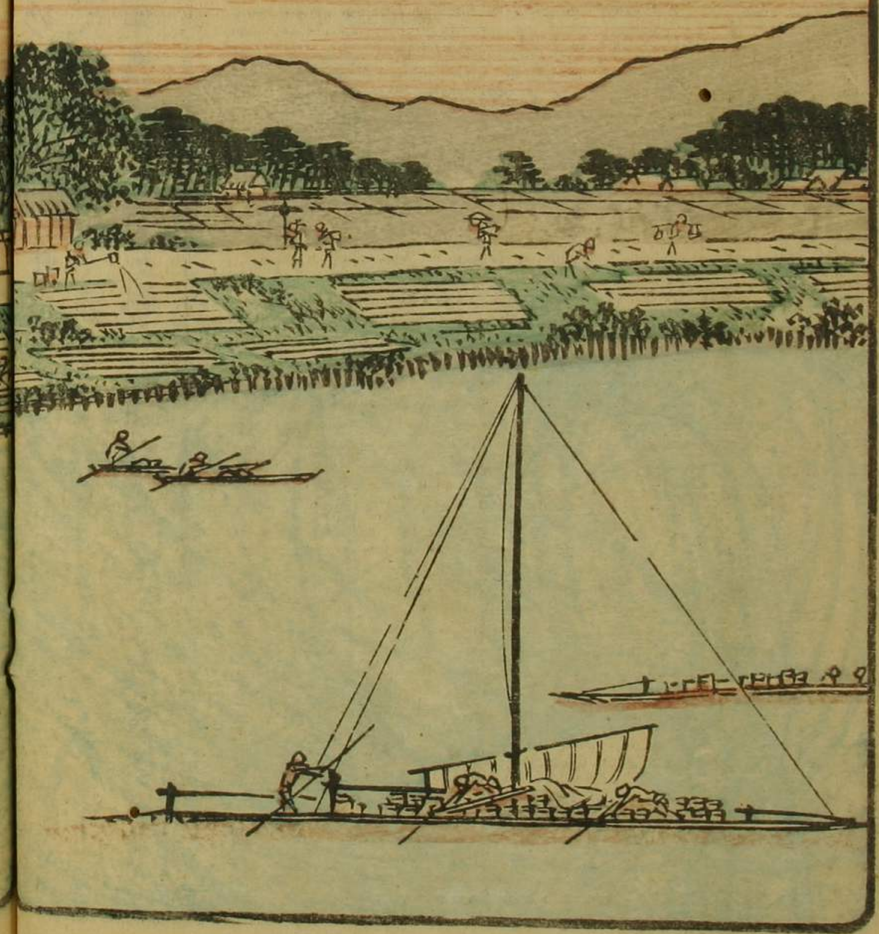
○三番　平太村の下こゝ江口こゝ　○二重新家　三番村の下こゝ淀こゝ三番こゝ
此所で水上九三十五丁ト云　平太水上九三十丁渡通常なれども淀

此所こゝ堤と下りて小さき通路あり甲渕寺ト京松村境こゝ　○増嶋　新家の下こゝ
堂前に鯉の捕こゝ是より淀川こゝ
増島の下こゝ俗国語と書り　○紫嶋　字義詳なるべし一説に解に
字義と極て新の料こゝ遠近こゝ
解高とびこゝ　紫嶋こゝ
紫嶋の堤こゝ此地淀川の辺なるまゝ流れと汲んで帝釋とさこゝ
紫嶋ざこゝ　○晒堤　これと紫嶋ざこゝ
一名白堤とこゝ　恰も雪のごこゝ
紫嶋ちの松林こゝ　敷村の事世に名こゝ

柴嶋
晒堤

半篙春碧
滑無聲坐
撫青山遞
送迎水路
日長人易
困雲間喜
認出金城

嶋椶隱

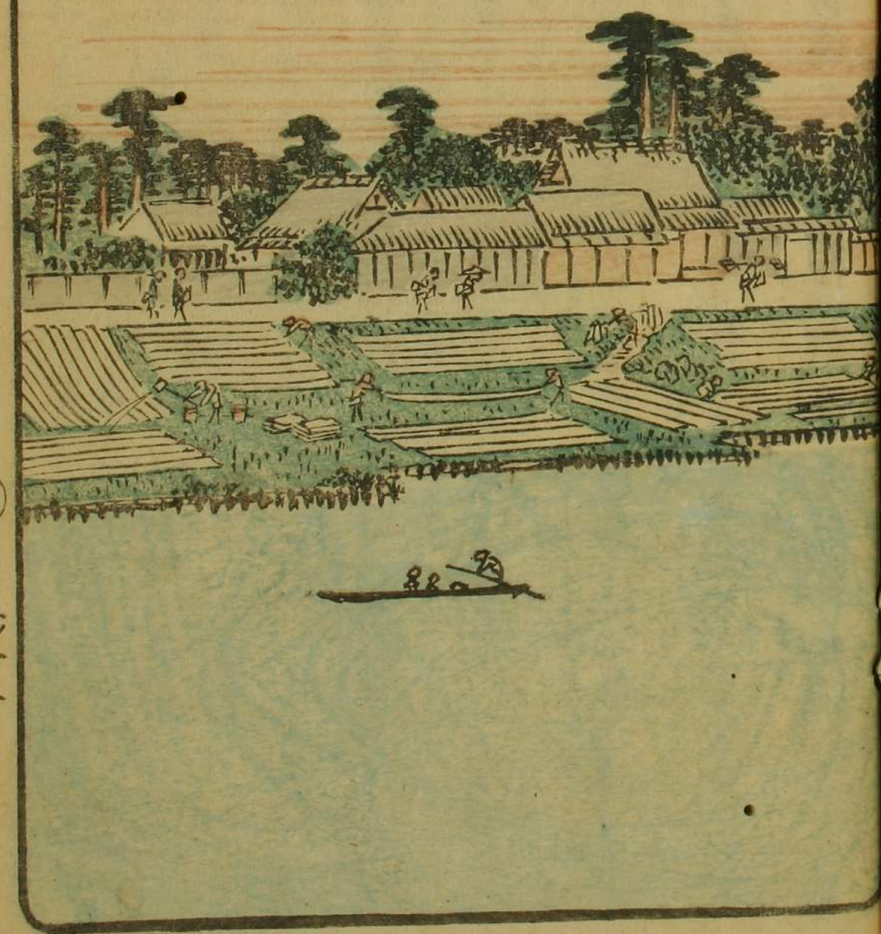


玉川の郡の
花つゝふ
ゝゝ
ゝゝ
布の白与

鷄成

下荷や
つゝ
船の跡

芦泊



長柄川　紫雲村の下にて一名中津川と云　淀川第二の支流なり　北長柄村より西へ流れて淀川と合流し海へ入西に西と三ツ頭と云

長柄渡口　藥師堂村より北長柄村へ渡す船なり　渡の長サ三十九間と云

二重新家　氏子水上九二十五丁と云

陽光山むしろ橋どころ　来山

○北長柄　右川の南岸にあり是より大坂へ行程七里　当村に教迦堂の旧址あり

長柄橋跡　此橋の旧址古来より詳ならざれども今わ朽ちられて是又多くの年月の世に埋れの世に

長柄橋跡　朽ちられて是又多くの年月の世に埋れの世に

按ずるに上古の大物浦より東北江口里南へ福島浦江曽根崎より

北へ神崎川まで一面の大江なりしを程なく大江の名ありて是を雅波江

雅波入江　雅波江の浦　三津江　御津浦とも和歌に詠れしより其

江の中に嶼々多くあり　今村里の古名の遺るもの多し　所謂南中

嶋北中嶋の中に橋本柴嶋　瀬川口小嶋等なる水達の郷名なり

長柄橋　孝徳天皇　人王　代　長柄豊崎宮の御時より彼嶼々架し

て皇居への通路とせしより　今読に長柄橋へ長サ一里ありし

と言伝へしより是一橋の名にあらずして嶋より嶋へ渡せしと

甚橋の數許多あれども地名によりて皆長柄橋とひとしく

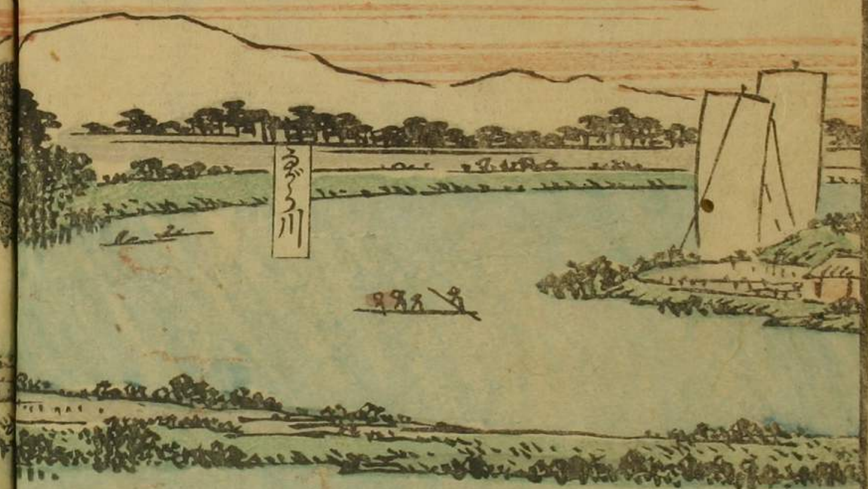
古来よりも今の北長柄より豊嶋郡乗水庄に至るまで長柄の

橋跡と言つたへされど橋杭と称する朽木所々より堀出る事有り

長柄三ツ頭

長柄川

同渡口



三ツ頭

淀川

我黒

江戸

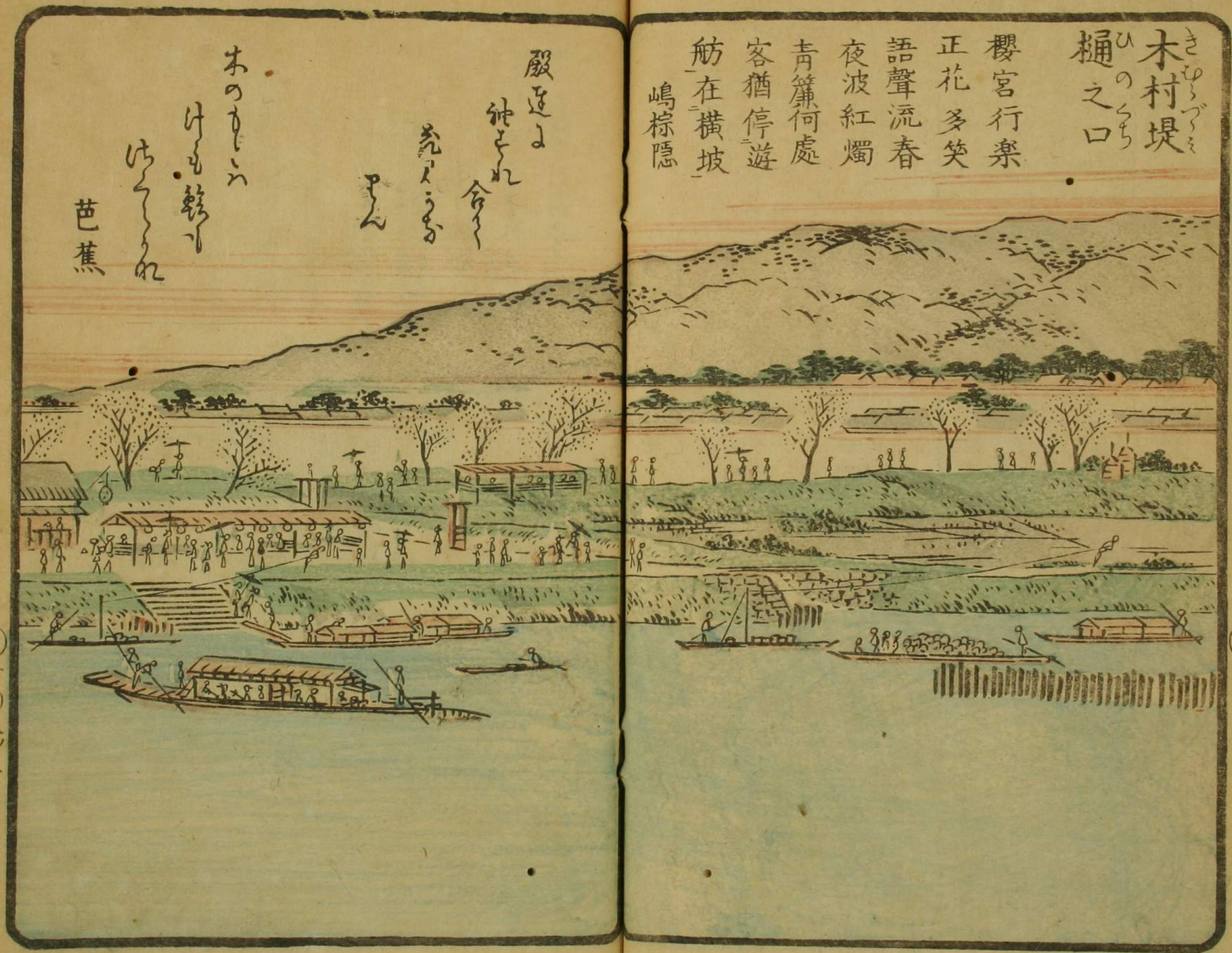
行成

其所一峯あるべ是にて一架の橋あるべきと知べし長柄豊崎宮
孝徳天皇崩じ給へし後ハ大和國飛鳥宮ふ遷都しるべ橋の
修理も怠り風威の時江海激荒しく落損じる事多しと
ふより其後　嵯峨天皇人皇五十二代の御宇弘仁三年夏六月再び
長柄橋と造らしむ後世ふ連んく神崎川長柄川天満川と
水路分れ江海ふ流れ田圃と変じ今の如く村里と
なれり業田変じく海となるハ大なる益なり
玉葉　さもあらばいかれ名のく長柄の橋垣ばかりとの人ふ高の定　定家

毛馬渡口　東生郡毛馬村より西成郡北長柄村へ渡川とて舟渡の長サ百九十間ト云此あたり惣名ハ同
○南長柄　北長柄村の下ニ有り村中の北田圃の中ニ
鶴満寺　南長柄村ニ有り天台律宗　本尊阿弥陀佛　慈覚大師作長四尺許
雲松山慈祥院と号ス
観音堂　本堂の西ニ有り秩父坂東西国巡礼所とす　百躰の観世音と安置
梵鐘　長門の国主毛利侯より寄附なり　往昔城下の辺土中より堀出ス
鋳銘　彫銘あり原ハ異国の器物なり　鋳銘ニ云大平十年二月云云
糸櫻　境内ニ大樹数株ハ花の盛ハ幽艶ニて駿人墨客打ひれく
風流ふ乗ス又此樹の傍ニ鬼貫の墓鴛鴦の塚ハ
國分寺　国分村ニ有り真言律宗　本尊阿弥陀佛　聖徳太子御作
正岡山金剛院と号ス　座像長三尺五寸許
不動堂　門内の西傍ニ有り　同東の傍ニ有り
赤不動尊と称ス　地蔵堂　敷石地蔵と称ス　當寺ハ国毎の国分

木村堤
樋口

櫻宮行楽
正花多笑
語聲流春
夜波紅燭
青簾何處
客猶停遊
舫在横坡
嶋棕隠

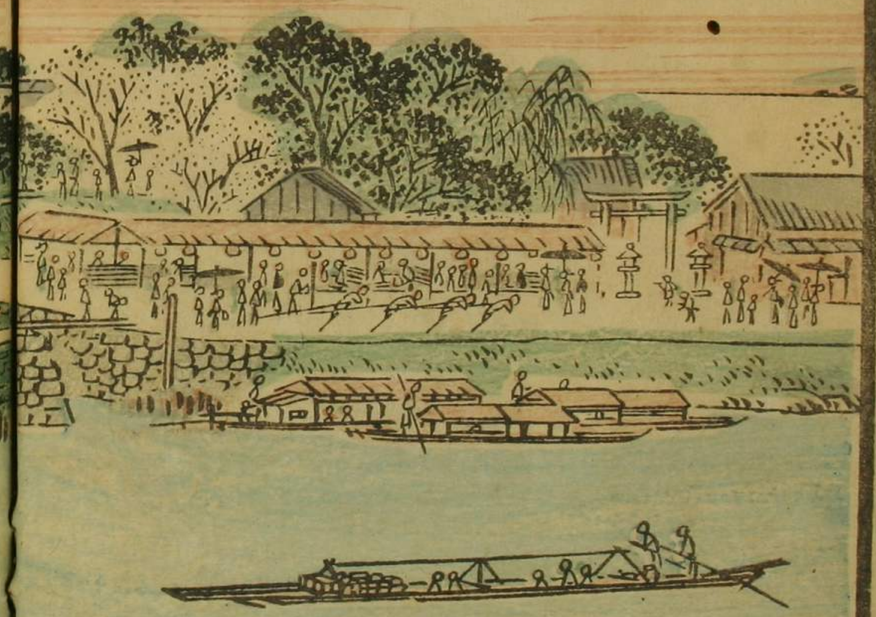


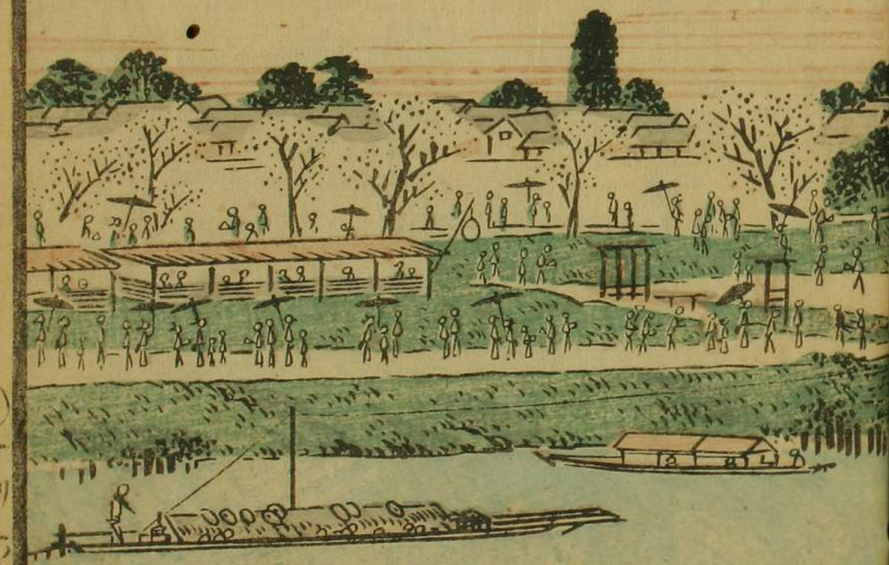
殿迄よ
紙ぶれ
今
花人
ぶん

木のもと
けも
けぶ
芭蕉

其二

上下の船に稚客をふせ乗
馬中に人物を乗せ
の日は寒く秋冷の強さ
三月十三日より九月十三日
まで稚客をふせぎると例と
されば年老たる孫客を用
ふとなりて隠の邪気
あらざるもとなれと御
僧の充満とのるか
こそ



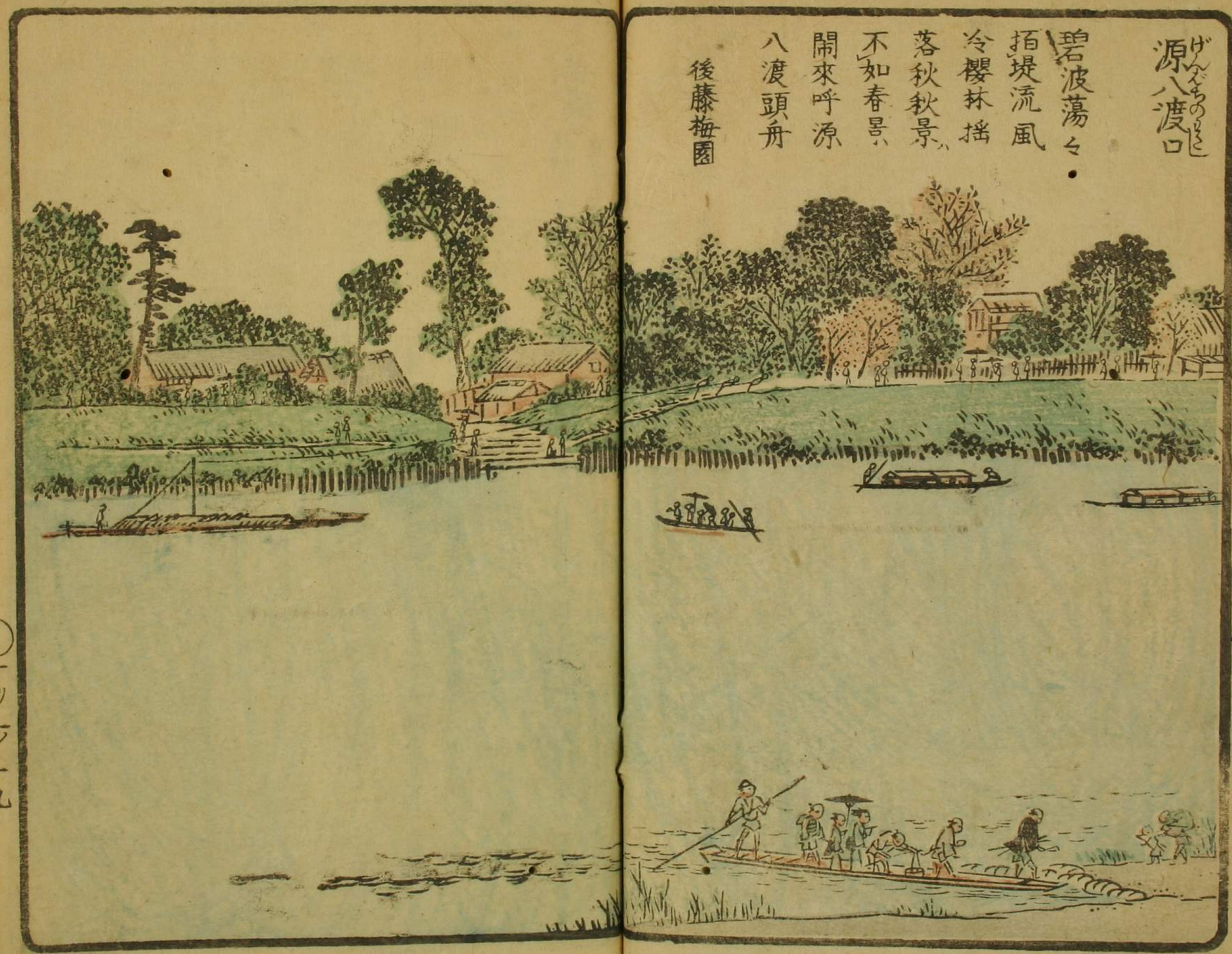


鞍骨の上を
よくふく花
さくるか
半休
川柳
戸戸の著
あらしの
鋼

寺の其一箇寺にて本願ハ聖武帝開基ハ行基僧正なり荒無
の後快圓比丘中興し〻律院となり国分寺料いくばくハ一萬斗
東其外施料の事延喜式に文徳實録にも見へたり後世廢
し〻今僅に存せり又東生郡にも国分寺に何れ一箇寺ハ
国分尼寺の旧蹟なるべん後人尚考へべし

○国分寺 南長柄村に隣る則ち
左国分寺の村里なり。須村源光寺鬼子母神堂權現松ハ此所の西に
国分寺村の下に天満堀川へ淀川の流れと通ずる樋の口なり
樋之口 近年船鑿に成り川そゝ堤の下に天満宮の祠あり
木村堤 右樋之口の堤とて此地ハ淀川の西岸にて国分寺村の辺より
岸の岸なり弥生の岸なり邪下の岸なり

源八渡口 樋の口の下にあり西成郡 天満源八町より東生郡中野村へ淀川と
中野の流れ水上八十四間ト云
○川寄 和藏和村木藏和屋敷方川岸に建列る此所に萩ぞ〻いと
淀水の時ハ下り船皆此所に寄とよむなり
北長柄三ツ頭より此所に水上凡九五丁とい
川崎御宮 天満宮の分社の東傍にあり 元和年間松平下総侯創建し給ひ三江
和尚寺勢〻九昌院建国寺と号ス禪宗洛陽建仁寺ハ
属ス御例祭四月十七日此日雑人の乱酔と許るハ是なり
浪花市中ハ言も更なり近郷の貴賤群集し川岸ハ出る



源八渡口

碧波蕩々
拍堤流風
冷櫻林揺
落秋秋景
不如春景
開來呼源
八渡頭舟

後藤梅園

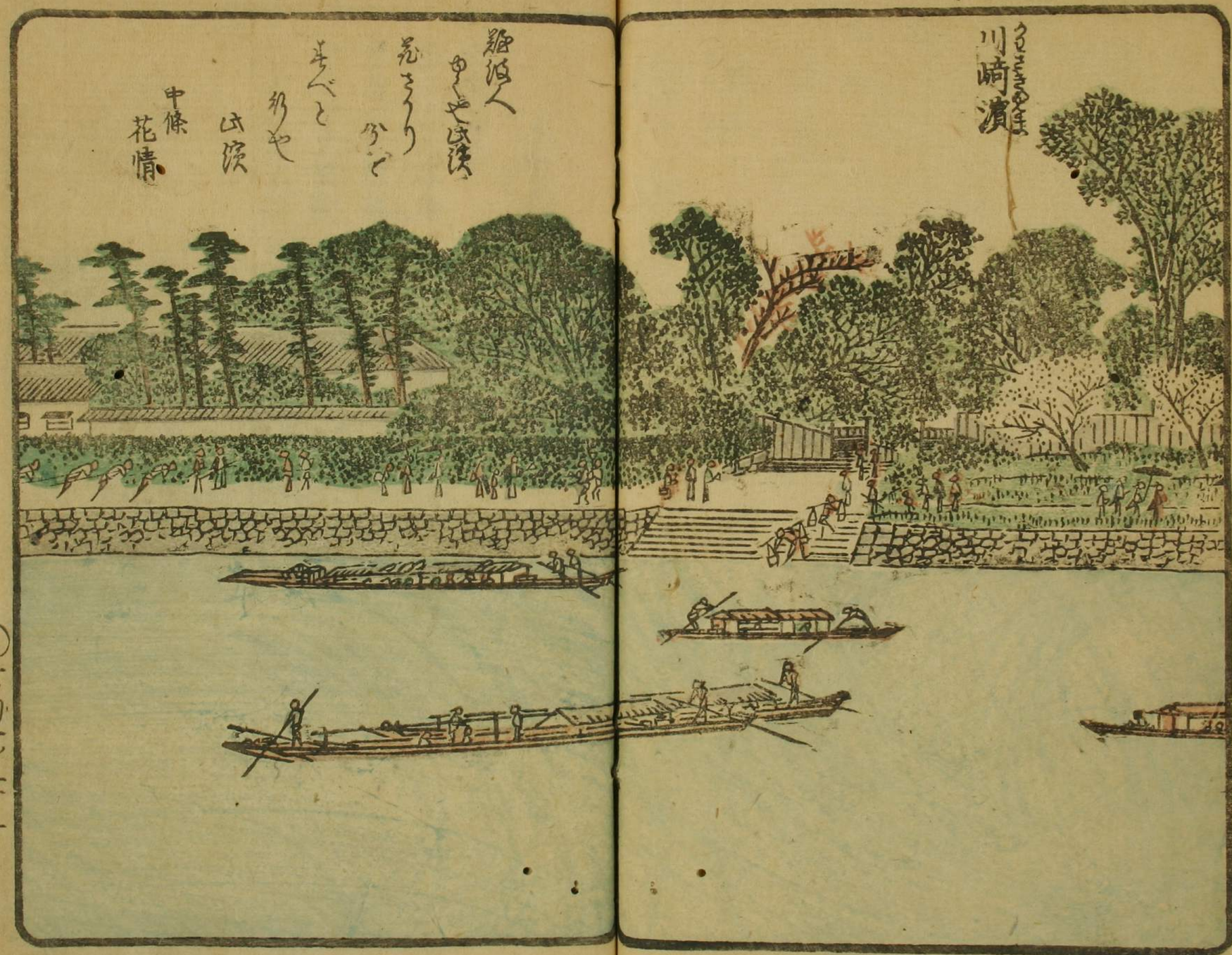
遊宴し渡船に乗して東堤に綫櫻宮に参詣するあり或は東堤より
西に渡りて糸絃をとりありて両岸の賑ひ言語に絶せり
さる程に堤には懸茶店つらなり貨食店菓子賣とちぢめ
童の手遊物売かんざし鬻ぐ男等所せきまで打群れ
恰も鼎の沸るが如し首夏第一の大紋日なり

川崎渡口 天満川崎町の渡より備前島に淀川をこえて船わたし京橋より
御城松の下をめぐりて風景よし渡の長サ八十四間とかや

監船所 川筋にあり淀川船方の番所、

天満橋 北詰は天満二丁目南詰は京橋二丁目なり大川の上第一の大橋なり長サ
百十五間五尺なり淀川筋又鯰江川古大和川平野川猫間川など合流す

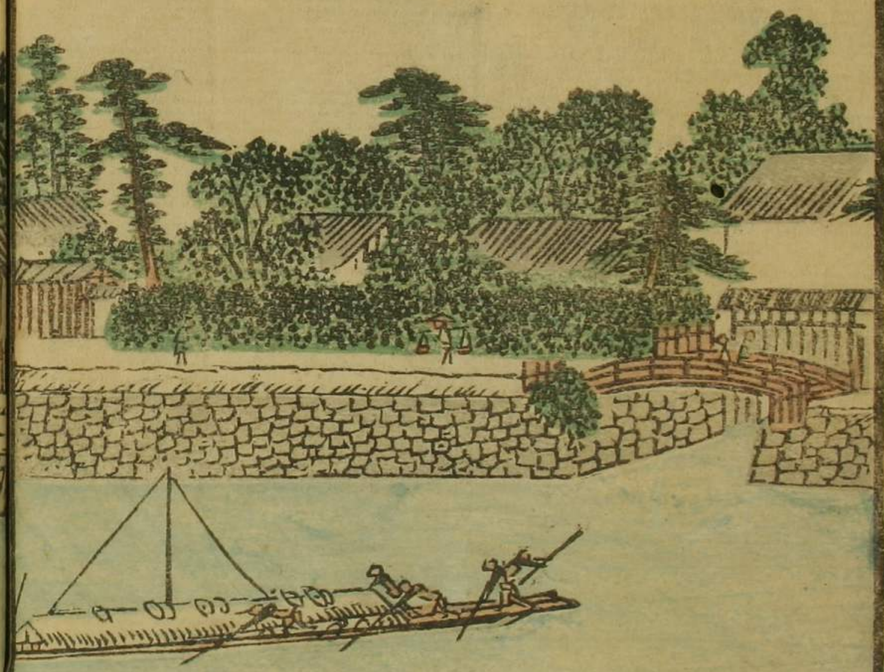
此橋下は淀川の流れ西に曲折て水勢つよきが故に上船は水主ぶら
力を尽して棹さし下船は押流されじと船をまはして大切に下る
是を艫下といふ 淀の小橋も又同じ是なんばやまはて船
擢杭にあたる時は大事に及ぶゆゑなり
徒然草曰高名の木上りと言し男人を掟て高き木に上せて梢を
伐せしに甚危く見へし程は言ふこともなく下る時に軒ばかり許に
成て過ちすな心して下りよと言葉を掛侍りしを斯ばかりに成ては
飛下るとも下りなん如何かくは言ぞと申侍りしかば其事に候目
くるめき枝危き程は己が恐れ侍れば申さず過ちは安き所に成て

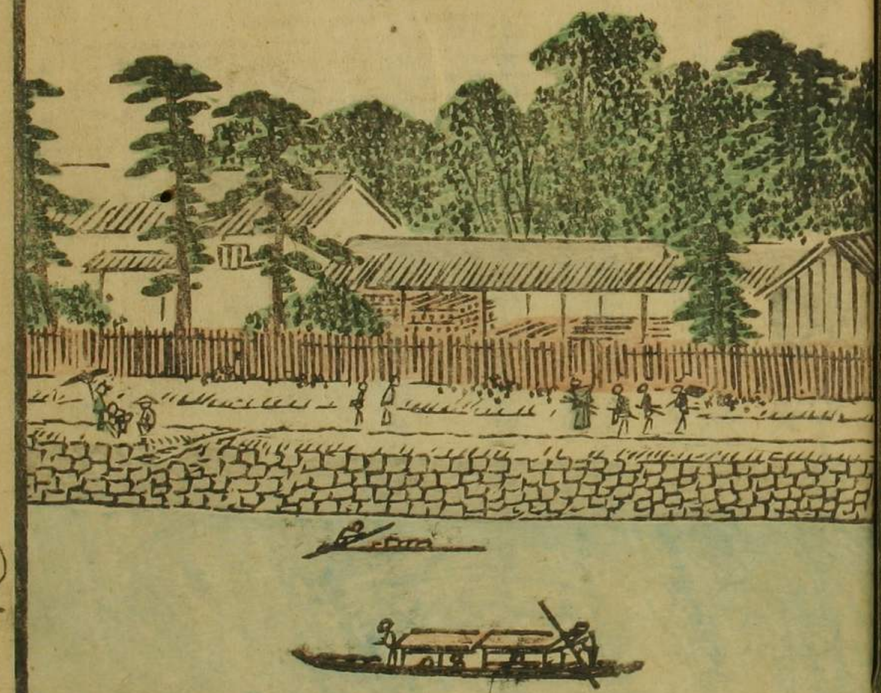

川崎濱
細流人
ゆくや武淀
花さくり
分と
まべと
移や
武淀
中條
花情

其二
御材木藏
萩橋

十里流澌送野
氣曉風夢後拂
春霜江南韻蹟
梅花在向客依
依吹古香

嶋樣隱





必ず仕る事なれども聖人のいましめあるゆえ
鞠もかくること所と跳出して後安く思つべし必ず落ること侍るやうん
易繫辭曰君子は安きに居れども危きを忘れず存を忘れず亡んことを
亡ぶべき治まれども乱れんことを忘れず是を以て身安くして国家
保んぬべしと実や高木に上る者のいましめ見るよりも下なる水主
楫取も又是に同じ淀川の長流を下る既に八軒家の見るに心
まどひて急ぐ則ち必ず過ちあるべし故に些細なるに大切なる変
所理なり船客も船の着しと悦び心あらはして過ぎるべ

菜蔬市場 天神橋北詰より東へ三町ばかりの間より北詰より西へ市の間
に荒物乾物の商家多し
此市場は日々朝毎に菜蔬と高ふして春の初の初市より暮の
終市に至るまで一日も怠らず賣買市人島のごとく集ひ
鱗の如く華に甚盛なりて甚し 原此市場は京橋南詰にもあり新
しく有しが慶安の頃其所御用地
京橋少詰片原町に引うつされ商人の往来繁しひ
なり然れども兎さまの所にうつりて繁して
天満天神社 右市場の北九丁目に正面通と
本社中央 大自在天神 相殿 東二 手力雄命 西二 猿田彦大神
東三 法性坊尊意 西三 姪児尊
其余社頭に末社多く神輿庫 宝庫 文庫 繪馬舎 廻廊巍々たり

菜蔬市場

天神橋

世習滔々趨侈奢
嘗新薦異競相誇
詩人欲賦苦無例
九月龍孫十月瓜

廣瀬謙

市場

八軒家

言是名都第一橋
萬瓈轟地夜猶多
舟船隨處皆堪泊
筒々樓燈照暗潮

嶋掠隱

其二

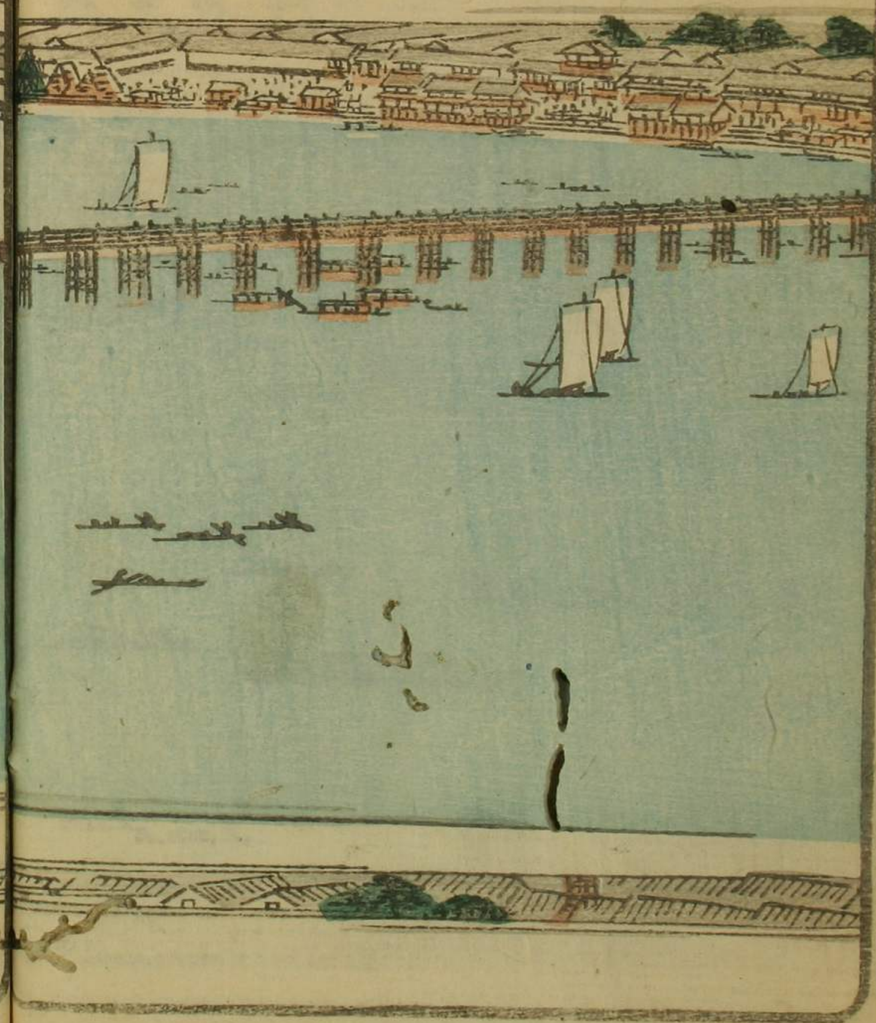
難波橋

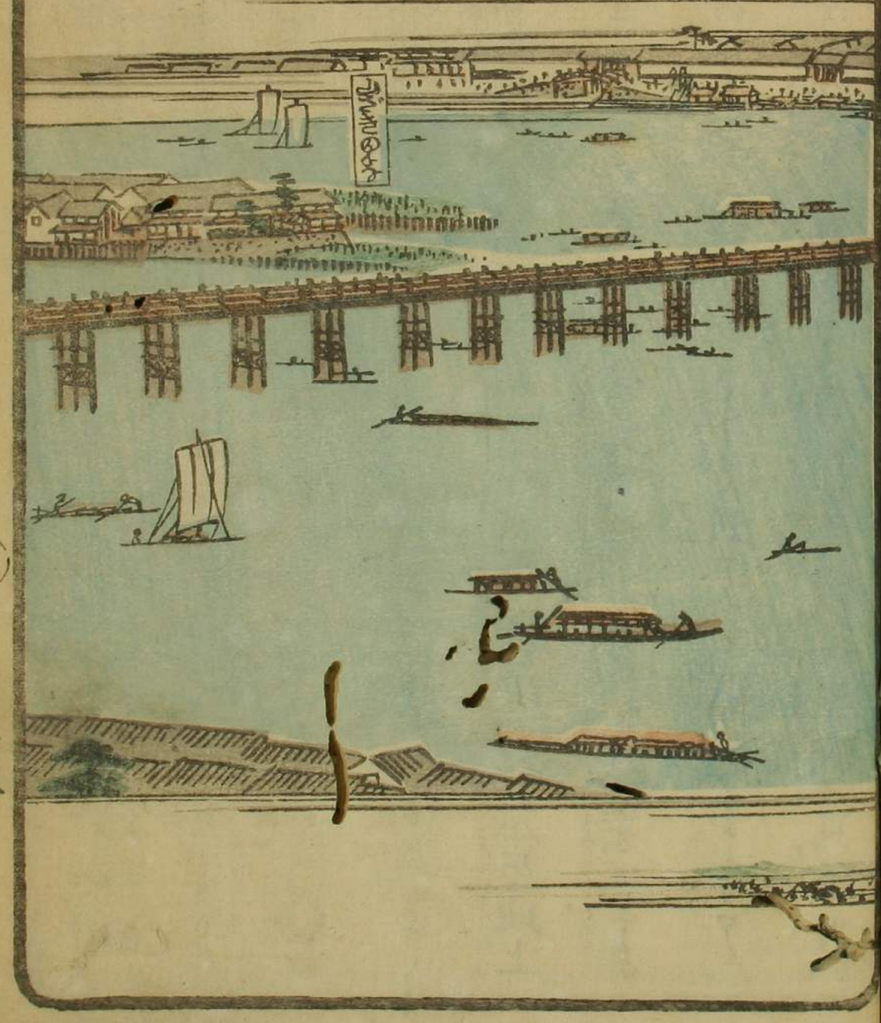
鍋島之濱

山崎之鼻

月と新
たてしや
格子戸
ひとり

伴水園





文なくひ
ゆうはの
格と夕風や
ちと山涼の
そよそよ
しく

其原

此地ハ往昔北西ヨ續き〳〵松原すゝしゞ村上天皇 人皇六十六代 天暦年間
勅願ヨりて〳〵初め〳〵建立〳〵給ふ所なりしそ故ヨ天神松原天神の
森なゞ古書ヨ見へたり地名と天満と号ひるこハ天満宮鎮座
〳〵給ふ故なりさる程ヨ霊験ひろたるれば四時ヨ詣人間断なく
遠近より群集へべ社内ハ昔嘶ひるひハ軍書講釈の小屋地上
ハ放下師品玉怪業の藝新内祭文流行歌の讀賣葉店茶
菓子類手拭見の出店ハと拵なせさまで列〳〵賑〳〵あ〳〵言ん
かなり門前ハ貨食家煮賣店新屋饅頭果實賣珍品

奇品の商家軒とうべ〳〵繁昌なるハ皆菅神の余光とい
べ〳〵例祭六月廿五日ハ鉾流〳〵の神事と号して神輿戎嶋の行
宮ヨ渡御ひろ其壮観の美景なる事ハ世俗普〳〵知る所なり又九月
廿五日ハ秋祭の神事行られ流鏑馬の式ひろ然ヨ殺生ヨ例
月廿五日ハ法〳〵羅とうせろ就中正月ハ初天神とて弱糸掛ヨ元宿
〳〵錐と立るの寸地なり〳〵所謂早春の天数日なり

天神橋 北詰ハ天満十丁目南詰ハ京橋六丁目ヨりハ川上ヨ第二の大橋ん
長サ百二十間三尺
當橋の北詰通ハ十丁目條と号〳〵夫より數の町〳〵と経て長柄の

渡口ふ通じ高槻山崎と過ぐ京師に至るの街道なり且近郷
便宜の通路なるゆえ諸高家軒を連ぐ萬端のもとひらけ交る事
なる程に旅人遊客ならびに諸色のとひる農夫天満宮の詣人街
に混じ終日閑静の時ともなく家に浪花北方第一の繁昌なり
南結の東は八軒家の舳岸にて是又昼夜とわかず賑ひ此別
なり出船入船ひまなる故に船客なり是より上陸して又
東堀通頓堀の船は橋の下より東堀と下流北濱西横堀の船は
大川と下て難波場の船は尚土佐堀と西に下る船客なり

甚
心あらん人に見せばや津國の難波のあしの芦の一ふし　能因法師

淀河條道法

甚便宜に隨ひ無変に着岸いろと甚愛度〳〵尚難波
橋の風景は前よりも〳〵著せば畧〳〵変に筆とゞむ

○伏見豊後橋より大阪西川口まで十三里四丁十三間

○豊後橋より淀小橋まで一里七丁四十間　○淀小橋より江口三ツ頭まで壹里四十間
○江口三ツ頭より長柄三ツ頭まで二里三十四間　○長柄三ツ頭より天満橋まで九五町六間
○天満橋より川口木津新町まで二里二町間　○淀水車より大坂京橋まで水勾培
八丈四尺五寸五分

淀川両岸一覽下船之巻　大尾

浪華　曉前鐘成　晴翁著述

同　松川半山畫圖

皇都　鎌田醉翁傳写

学治川両岸一覽（うぢがわりょうがんいちらん）　曉晴翁著　松川半山画　中本　全二冊

文久三癸亥年孝春發行

書肆

東都　浅草茅場町　山城屋佐兵衛

大坂心斎橋通北へ入　河内屋太右衛門

京都麩屋町姉小路　丁子屋清兵衛